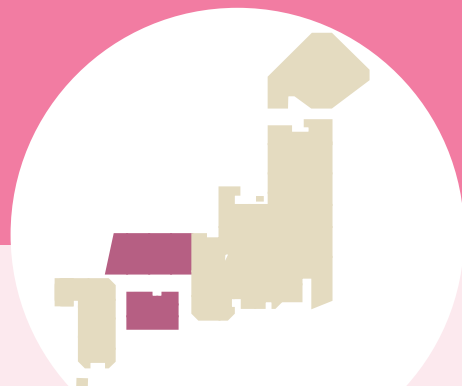


中国・四国



p.38 鳥取県 三橋裕司さん  ソフトバレーボール	p.39 島根県 西村和正さん  卓球	p.40 島根県 増野峰国さん  サッカー	p.41 岡山県 氏房 要さん  軟式野球
p.42 岡山県 矢吹卓彦さん  スポーツチャンバラ	p.43 山口県 橋本 勲さん  ペタンク	p.44 山口県 田中健二さん  水泳	p.45 徳島県 木内栄造さん  ゴルフ
p.46 徳島県 福井和弘さん  ソフトボール	p.47 香川県 杉下良子さん  なぎなた	p.48 香川県 佐々木 登さん  サッカー	p.49 高知県 野村美雪さん  スポーツチャンバラ
p.50 広島市 樋口 毅さん  水泳	  		



ソフトバレーボール 「鹿野フレンズさくら」(選手)

み は し ゆ う じ
三橋 裕司 さん

66 歳

● 参加歴：2 回目

参加できる喜びはひとしお、記憶に残る大会に

私が参加した種目はソフトバレーボールで、男女各2名でプレーする競技です。私たちのチームは県内の大会を勝ち抜いてこの大会に出場しました。私にとっては、2回目のねんりんピックになります。

私たちのチームは、週に1回、20代から70代まで約20人で練習しています。県内外の大会にも積極的に参加しているアットホームなチームです。

前回出場した和歌山大会の後に新型コロナウイルスの感染が拡大し、大会のほとんどがなくなって気分が滅入っていました。今年はようやくねんりんピックが開催されることになり、我がチームも参加できるということでチーム全員で喜びあいました。

11月13日の試合初日は予選リーグ戦でしたが、チーム全員が会場の雰囲気のにまれ、本領を発揮できずに2敗を喫しました。翌14日は順位別の試合となり、チーム全員が前日の敗戦

を反省して、序盤からチームの持ち味を発揮。2勝して順位別で1位となりメダルをいただきました。

今回のねんりんピックはコロナ禍での開催でもあり、今までにない準備や対策が行われた記憶に残る大会となりました。大会前後の体調管理、試合中以外のマスク着用、試合前後の相手選手との握手なし、試合球や用具の消毒など、大会関係者の方々のご苦労は大変なものであったろうと思います。

この度のねんりんピックに参加することができて大変感謝しています。2024年のねんりんピックは鳥取県で開催されます。この時には私も、大会役員、選手、ボランティアのいずれかで参加して、ねんりんピックを盛り上げたいと考えています。

最後に、大会期間中にいろいろとお世話をしただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



大会に参加できる喜びを全員でかみしめた。(後列右端)



卓球 「神話のくに島根」(監督兼選手)

にし むら かず まさ

西村 和正さん

65 歳

● 参加歴：1 回目

島根県初！ 卓球で念願の日本一を獲得

私たち卓球のチームは、島根県で初めて日本一を獲得することができました。競技はラージボール卓球で6名の団体戦で戦います。シングルス4つ、ダブルス1つを行い、3勝したら勝ちという団体戦です。

今回の島根県選手団は、5月に行われた予選を勝ち抜いた選手で構成されています。住んでいる場所は松江市・出雲市・大田市・益田市と離れているため一緒に練習することが難しく、個々での練習に励み、島根県内の大会会場で顔を合わせれば励まし合っていました。

私自身、卓球は中学・高校で経験がありましたが、長いブランクの後、45歳から硬式卓球を再開し、50歳頃からラージボール卓球を始めました。チームの中には硬式卓球とラージボール卓球と両方行っている人もいますが、私は次第にラージボール卓球だけを行うようになりました。ラージボール卓球に出会えたことで、私の卓球人生は終わることなく、今現在も楽しく続けられています。

長寿日本・長寿島根県を象徴するように、生涯スポーツの一つであるラージボール卓球の輪が広がり、県内でも愛好家が増えている状況です。大会も数多く開催され、練習だけでなく腕試しを行う場もたくさんあります。今回のねんりんピックで、卓球大会の参加者の最高年齢は87歳、島根県でも同じくらいの年齢の方が活躍されています。元気であれば、体が動けば、何歳になっても楽しめるとても素晴らしいスポーツだと思います。

そんなラージボール卓球で島根県選手団として活躍できたことは、私をはじめ選手一同とて

もうれしく誇らしいことでした。先に申しましたように、住んでいる場所が広範囲であり、普段なかなか一緒に練習することができませんでした。しかし、出発当日から行動を共にすることでチームワークが徐々に高まり、一つひとつ勝っていくなかで互いに励まし、もう一つ頑張ろう、もう一つ頑張ろうと優勝へ繋げていきました。このような素晴らしい感動と喜びを体験させていただいたチームのメンバーに感謝です。

最後になりましたが、お世話になりました横須賀市の皆様、島根県の関係者の皆様に、心より感謝とお礼を申し上げます。



日頃の練習の成果を試合で発揮。



チームワークで見事優勝。(右端)



サッカー 「島根県」(監督兼選手)

ましの みねくに
増野 峰国さん

62歳

● 参加歴：1 回目

大会出場で実感した生涯スポーツの力

今春、私は腰椎を骨折し寝たきり生活を送っていた。「もう元のように走れないかもしれない」という不安に苛まれる毎日だった。しかしそんな私に所属チームの友人達は「ねんりんピック参加」という新たな目標を与えてくれた。回復が間に合わなくても参加できる「監督」という肩書きまでつけて。参加枠を譲ってくれた友人に申し訳なかった。でも、うれしかった。おかげで折れかけていた心を立て直し、リハビリに励むことができ、試合出場が可能なまでに回復することができた。

さて今回の島根県チームは、全県で3つあるシニアチームの選手で編成した混成チームである。61歳から74歳、国体経験者から私のような社会人になってサッカーを始めた者まで、年齢も経験値も様々である。東西に長い島根県では合同練習もままならず、メンバー全員が揃ってプレーするのは試合当日が初めてだった。連携など不安はあったが、メンバーを熟知するチームリーダーの松本さんが、しっかりと戦術を練ってくれた。前後半で8人が交代し、各試合19人全員が出場しグループ優勝を目指す方針で試合に臨んだ。

初戦の相手は、地元川崎市。苦戦も予想されたが、前後半ともに安定した堅い守りで0対0の引き分け。この一戦に誰もが確かな手応えを感じ、チームの士気と団結力は一気に高

まった。続く宮崎戦は勢いに乗って2対0で初勝利。2日目、互いにグループ優勝をかけた北海道戦も、前後半1点ずつをあげ、2対0で勝つことができた。

仲間を信頼し、全員がそれぞれの持ち味を発揮しながら自分の仕事をやりきった。このチームワークが、全試合無失点、前回大会に続くグループ優勝という結果につながったと思う。表彰式でみんなの達成感に満ちた笑顔を見た時、名ばかりではあったが、監督としての大きな喜びを感じさせてもらった。

今回ねんりんピックに参加して、改めて感じたのは、生涯スポーツの力、価値の尊さである。みんな還暦を過ぎても少年のように瞳を輝かせボールを追っていた。好きなスポーツを続けることで、それを楽しめるだけの気力、体力、技術を維持している。声をかけ合い励まし合える仲間がいる。なんと豊かな人生だろうか。

私もこの大会を通し、自分自身のたくさんの幸せに気づかせてもらった。仲間への感謝の気持ち忘れず、これからも自分なりの年輪を、一年一年刻んでいきたいと思う。



グループ優勝を果たした仲間たちとともに。(前列左端)



軟式野球 「倉敷フレンズ」(選手代表)

うじ ふさ かなめ

氏房 要さん

74 歳

● 参加歴：2 回目

競技種目を超えた新たな出会いと交流に感謝

「ねんりんピック」は国・県等の主催事業のため、いつものことながら総合開会式をはじめ、全てにおいて目を見張るものがありました。特にメインアトラクション「～昭和・平成・令和そして未来へ～」は、我々の過ごした懐かしい時代から未来に向かうというテーマで、同世代の参加者にとっては大いに感動させられる総合開会式でありました。

軟式野球交流戦大会においては、宿泊ホテルから競技会場に我々チームのアテンド（ボランティア）が配置されており、競技運営に支障の出ないように配慮されていました。

大会期間中は「おはようございます。今日もよろしくお願いします」から始まり、常に我々チームのサポートをしていただきました。ボランティアの一人は偶然にも倉敷出身とのことで、いろいろと話が盛り上がり、親近感がわいて自然と交流の輪ができました。

大会最終日、我々チームのサポートをしてくださったボランティアの方々に対し感謝を申し上げます。「我々がここまで活躍できたのは皆さんのおかげです。皆さんは我々のチームの

一員でした」とあいさつして受賞したメダルを渡しましたところ、大変に喜ばれ、感動的な別れとなりました。

大会期間中の観光ツアー（川崎工場夜景クルーズ）も思い出に残っています。観光ツアーに参加する場合、計画輸送では帰りは最寄りの駅までとなっていたましたが、我々選手は手荷物がたくさんあったため、宿泊ホテルまでお願いできないか市の職員・観光ツアー担当者に相談したところ、快く宿泊ホテルに変更していただくことができました。関係者の臨機応変な対応に感謝いたします。

また、川崎工場夜景クルーズ船内では、他のグループの方々と同席することになり、船内では一緒に歌を歌ったりして大いに盛り上がり、素晴らしい交流ができました。川崎工場夜景クルーズ計画を行った行政担当の方も、「県、競技種目も異なる選手がいろいろな人と出会い、交流が持てました」とねんりんピックの目的である交流の促進ができたと安堵しておりました。

今回参加してみて、開催県の市町村の温かいおもてなしや、思い出に残る企画を作っていただいたことに感謝を申し上げるとともに、地元行政機関の関係者のご努力にお礼を申し上げます。

「ねんりんピック」バンザイ！ そして感動をありがとう。



準決勝に勝ち、チームメイトと喜びを分かち合った。
(前列右から3番目)



工場夜景クルーズでは他競技の選手とも交流。



スポーツチャンバラ 「岡山県スポーツチャンバラ協会」(監督兼選手)

やぶき たか ひこ

矢吹 卓彦さん

69 歳

● 参加歴：1 回目

初出場仲間と対決、一生の思い出に

岡山県スポーツチャンバラ協会からねんりんピックのお話をいただいた時、私は大会のことを全然知りませんでした。その後、二度の説明会に出席し、毎年全国で開催され今年は34回目とのことで、大変大きな大会だと知り驚きました。何の前知識もなく不安がありましたが、神奈川はスポーツチャンバラの発祥の地で本部もある場所。私自身、世界大会に参加して以来訪れておらず、会場は当時話題の大河ドラマの地・鎌倉と知って、これは最高の舞台だと思い、手を挙げました。

私はスポーツチャンバラを始めて30年で、現在は総社武道館で約30名を指導しています。練習生は子供が多く、一般も40歳くらいまで。私のようなシルバー世代は少なく、他に参加する人がいなければ不参加にしようかと思っていたところ、瀬戸内市の秋山さんに手を挙げていただいたので、2名で参加することになりました。秋山さんはスポーツチャンバラ歴がまだ2年ほどで、会社を経営されて大変忙しくされている方で、大会前は一度顔合わせをただけでした。

私は定年後は農業に従事していますが、69歳で試合に出られることに大きな希望と喜びをかみしめ、声がかかった日から毎日労働と練習をしながら準備をしてきました。

11月11日に岡山駅に参加選手・関係者の約160名が同じユニフォームを着て集合し、新幹線にて出発。まるで修学旅行のようでした。翌12日の開会式は初めての横浜アリーナで、その大きさにビックリ！会場内は色とりどりに装飾されて満員で、異次元の世界に飛び込んだようでした。式典では入場行進者5名の中の1人

として参加したことも、記念の一つになりました。皇室をはじめ政界・芸能界の方々が出席したセレモニーも艶やかで思い出になりました。

翌13日の鎌倉武道館での開始式からは、経験のある様式で慣れているはずでしたが、最近ほとんど審判での参加で選手としては久しぶりの参加なので、現役の頃を思い出して異様に緊張している事に気づきました（これがブランク？）。改めて気を引き締めて全集中。2試合目の小太刀の試合は順調に勝ち進み、とうとう3位決定戦で秋山さんと岡山県同士で対決することに。最高の気分になり、今回の1番の思い出にしようと試合に臨みましたが、ほんの一瞬に秋山さんの小手が入り、「勝負あり」との声とともに勝負決着。一生の思い出となる試合になりました。秋山さん、ありがとうございました。一

緒に写真も撮ることができて最高の記念となりました。皆様に感謝を申し上げる次第です。



ともに出場した秋山さんとの記念ショット。(右)



小太刀の3位決定戦は岡山県対決に。(右)



ペタンク 「ごっぽ宇部」(監督兼選手)

はしもと いさお

橋本 勲さん

67歳

● 参加歴：1回目

負けてもすかっと爽快！ この経験を次に生かしたい

2021年5月の代表選考大会で出場権を得ましたが、中止のため、2022年度の「ねりんピックかながわ2022」へ繰越で推薦していただきました。しかし、今年も新型コロナの感染は収まらず、夏の屋外でもマスクを着用し、感染予防と熱中症対策をしながら練習を行い、抗原検査を実施しての参加となりました。

私たちのチームは仕事を持っている人もいますので、休みの土曜日を合同練習日にして、平日は個人練習で技術の向上に努めました。

ペタンクは、直径3cmの目標球（ビュット）に向けて金属のボールを投げ、目標球に近いボールを得点とするゲームです。ポッチャのボールを金属に変えたものと思ってもらえればよいと思います。ペタンクの本格的な普及は1970年からで、50年余りの歴史しかなく、知名度がまだあまりありませんが、高齢になっても続けられる競技なので、競技歴30年を超えるベテラン選手が全国にたくさんおられます。

山口県では、若手がなかなか代表になるのが難しい状況でしたが、競技者が全体的に高齢化したために、比較的若く新しいチームが代表になり始めています。私たちが結成して5年で代

表権を獲得できたのも、同様な理由からだと思っています。

出場が決まってからは、各自が練習を行い、作戦通りに投げられる確率を上げることに注力しました。総合練習は週に1回、土曜日に行い、本番では楽しみながらプレーすることを申し合わせて大会に臨みました。

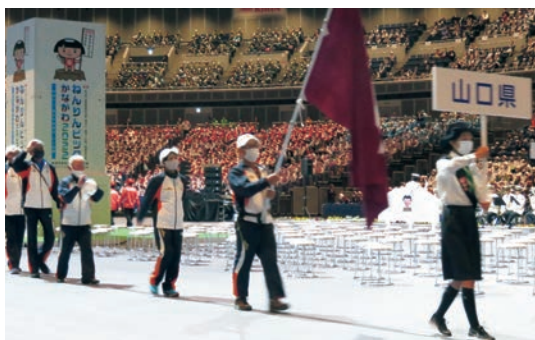
1日目の天気が雨予報でしたが、両日とも雨具を着けずにプレーすることができました。日頃は、県外の試合に参加することがないので、他県のチームとの対戦や交流ができたのはよい経験になりました。

決勝トーナメントの準々決勝では名古屋市チームと対戦し、9m位の距離の私たちの得点ボールに直接に投球を当てて、投げたボールがその場に残るという「カラー」を決められ、私たちは、レベルの大きな違いを感じながらもすっきりした気持ちで試合を終えることができました。

今回の経験を県内の選手へ伝え、さらなるレベルアップと競技者拡大に努めたいと思っています。



試合を楽しもうと誓い合った「ごっぽ宇部」チーム。(左端)



入場行進では山口県選手団の旗手を務めた。



水 泳 平泳ぎ 50m 平泳ぎ 25m 「山口県」(選手)

た な か けん じ
田 中 健 二 さん

68 歳

● 参加歴：2 回目

電光掲示板に光る「1 位」の記録に歓喜！

「ねんりんピックかながわ 2022」の1週間前から、小学生のようにウキウキ・ワクワクしていました。ウキウキ・ワクワクする気持ちが、68歳の私の若さと健康の秘訣です。

総合開会式は「神奈川に 咲かせ長寿の いい笑顔」をテーマとした大変素晴らしいものでした。特にメインアトラクション「～昭和・平成・令和そして未来へ～」は自分の生い立ちとオーバーラップして強い感動を受けました。

水泳会場の相模原グリーンプールでの試合は、私にとって今回が3回目となります。1回目は、25年前に日本実業団の試合で優勝（この日に四男が誕生）、2回目は24年前の「かながわ・ゆめ国体」に出場しました。このプールは大変相性のいいプールと言えます。

翌日、いよいよ水泳競技が始まりました。1日目の50メートル平泳ぎ。不安と緊張の中、スタート台に立ち、飛び込んだ瞬間、ゴーグルの中に水が入るという思いがけない事が起こり、前方がよく見えない状態になりました。

あせってはいけなさと自分に言い聞かせましたが、25メートルの壁がよく見えずターンに失敗、ラスト15メートル付近で今までの練習や県

代表、家族の顔を思い出し、最後のモガキ（苦しんで手足を動かす）でゴールタッチ。振り返って電光掲示板の「1位 37 秒 06」を見てほっとしました。しかし、記録は満足できるものではなかったもので悔しい思いをしました。相性のいいプールだったのに……。

普段の大会では表彰式がないため、久しぶりに表彰台中央で金メダルを掛けてもらい、県代表としての役割を果たせたかと安堵と充実感にひたりました。

2日目は、昨日のレースでゴーグルに水が入ったので予備のゴーグルに変え、前日に続き金メダルを目標にスタート台に立ちました。

スタートからゴールタッチ、特に泳ぎに問題ありませんでした。振り返った電光掲示板の「1位 16 秒 31」にうれしさがこみ上げました。家族や水泳仲間祝福され、記憶に残る大会となりました。

私が金メダルをもらえたのは、地元周南スイミングで練習ができたこと、県の代表に選出してもらったこと、最後に妻の理解があったことだと思って感謝しています。

これからは、結果ばかりにこだわらず、競技ができる喜びをかみしめて泳ぐことを大切に、健康で長生きしたいと思います。



久しぶりの表彰台に。忘れられない大会となった。



念願の金メダル2つを獲得！



ゴルフ 「徳島県」(選手)

きの うち えい ぞう

木内 栄造 さん

68 歳

● 参加歴：1 回目

優勝はゴルフの神様からのプレゼント

私は今回、「ねりんピックかながわ 2022」のゴルフ競技に、徳島県の代表として参加させていただきました。ゴルフは若い頃から長年続けていたのですが、競技としては最近まで縁はなく、もっぱら友人たちとの親睦を深めるためと健康維持のためのゴルフに没頭していました。ゴルフ競技には、テレビでも放送されているプロのトーナメントと同じルールで競う「スクラッチ競技」と、腕を競いながらも親睦を深めることを重視した「ハンディキャップ競技」があります。ねりんピック予選は、ハンディキャップ競技で行われたため、運良く徳島県の代表の一員に加えてもらえることになりました。

団体戦のメンバーは、私の所属するクラブの先輩の中野寒次さんと県下ではベテラン選手の小谷博さんとの3人です。団体戦は3人のスコアの合計で競うため、大きな大会に参加経験のない私は、ちょっとだけプレッシャーを感じておりました。

神奈川県までの移動は公共交通機関を予定していたのですが、ゴルフクラブのキャディバッグの発送やホテルからの移動を考慮して、1台の車に3人が乗り合わせて行くこととしました。片道7時間の長距離ドライブでしたが、3人で交替しながら運転して、車内での会話は好きなゴルフの話題で途切れることがなく、無事に神奈川県の会場に到着しました。

会場は箱根外輪山の麓の大箱根カントリークラブです。アップダウンの少ない雄大なコース



大箱根カントリークラブで伸び伸びとプレーを楽しんだ。

で、到着したときのスタッフの対応、コースの芝の管理状況、キャディさんの的確なアドバイスなど全国大会の会場としてふさわしい素晴らしい会場でした。

ゴルフ競技は4人1組で実施されます。同伴者は、地元の神奈川県、福岡県、鳥取県の選手でした。ゴルフ競技は、4時間から5時間のプレー時間に休憩の時間も含めて6時間程度の長時間になります。プレー中は、4人が同じゴルフカートに乗って移動するのですが、各地のゴルフ事情、各自のゴルフスタイルなどを話しながらの競技は、ねりんピックならではのようです。

競技後は、時節柄表彰式はなく、少人数での時間差の懇親会が行われ、団体戦の優勝と予想外の個人戦の優勝の連絡をいただきました。団体戦優勝は、移動から宿泊まで数日にわたって行動したチームワークの集大成でした。個人戦の優勝は、ゴルフの神様からのハンディキャップのプレゼントと思っています。

最後に、今回の大会に関係された皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。お世話になりました。



団体優勝はチームワークの賜物。(右端)



ソフトボール

「鳴門クラブ」(監督代行兼選手)

ふく い かず ひろ

福井 和弘さん

66歳

●参加歴：1回目

豊富な経験を糧に臨んだ初めてのねんりんピック

我らが「鳴門クラブ」は、2020年に結成しました。しかし、ねんりんピックは2020年、2021年とコロナで中止になり、この度、神奈川県での大会に初出場することができました。

「鳴門クラブ」の前身は、一般のクラブチーム「鳴門渦潮クラブ」です。鳴門渦潮クラブは1984年に結成され、その翌年、鳥取県で行われた「第5回全日本クラブ男子選手権」に初出場し、初優勝をすることができました。その当時から、部員は11名、ピッチャーは、エースの関原がほとんど1人で投げきってきました。鳴門渦潮クラブ結成から12年間で、優勝1回、準優勝1回、国体も2回出場できました。

2001年、壮年(40歳以上)のチームを新たに結成しましたが、やっぱり部員は11名、ちょっと年離れた「さわやかイレブン」でした。結成より12年間、戦績は西日本大会で優勝7回、全日本大会で優勝6回(うち5連覇)、準優勝3回、マスターズ優勝3回、準優勝1回です。

そして、2013年に壮年のメンバーがそのまま実年(50歳以上)のチームに上がり、戦績は10年間で優勝1回、準優勝2回です。2020年にはシニアチームを結成し、2022年にシニア全日本大会に出場し、2回戦敗退で終わりました。自慢話ですみません。

今回の「ねんりんピックかながわ2022」は、初めての参加だったので、わくわくしな

がらも、自覚をもって出場し、優勝を勝ち取ることができました。ねんりんピックかながわ2022、最高!

また、ねんりんピックのソフトボール交流大会に携わってくださったスタッフ、審判員の皆さん、開会式で吹奏楽、太鼓を演奏してくださった皆さん、感動しました。ありがとうございました。

3年後のねんりんピックにも参加できるように、練習に励んでいきます。また、とくしま“あい”ランド推進協議会事務局の皆様方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。ご苦労様でした。



バッターボックスに立つ福井さん。



試合前、心地よい緊張感とともに記念の一枚。(後列左端)



なぎなた 「香川県」(監督兼選手)

すぎした りょう こ

杉下 良子さん

65 歳

● 参加歴：1 回目

夢は 25 年後、娘と一緒にねんりんピック出場

こんなに緊張したのは何年ぶりでしょうか。まるでジェットコースターに乗る直前のドキドキ感と試合前のとてもワクワクする気持ち。60 歳を過ぎてこんな体験ができるなんて、なんと素晴らしいことでしょう。

大会初日は演技競技から始まりました。私は生意気にも監督として、人生の先輩であるお二人に叱咤激励しながら練習を重ねてきました。過去に優勝経験のある香川さんと資延さんのペアでしたが、残念ながらミスをして2回戦敗退という結果になりました。

午後は3名による団体戦です。先鋒の谷口さんは落ち着いた試合運びで先鋒の役割を十分に果たしてくれました。中堅は私の一番好きなポジションです。大将には迷惑をかけられない、私は何がなんでも一本取ってチームを勝利に導きたいと意気込みました。今大会で最高年齢賞に輝いた香川さんを手ぶらでは帰せないと焦る気持ちが空回り、引き分けに終わってしまいました。しかし、さすがが大将役をお任せした香川さんです。落ち着いた試合運びで、きっちり2本を取り、チームを勝利に導いてくれました。決勝では残念ながら負けてしまいましたが、私たちをいろいろな面でサポートしてくださった資延さんも含めて4人で勝ち取った準優勝でした。試合が終わり安堵した気持ちとやりきった感で感無量になりました。全国から集まった仲間たちも祝福してくれました。

ねんりんピックとの出会いは平成6年、地元で開催された「かがわ大会」に審判として参加した時です。平成20年の「かごしま大会」にも審判として参加し、その時から60歳になったらね

んりんピックに選手として出場したいと思っていました。前回の「和歌山大会」で初エントリーをしましたが、大会直前に心臓疾患が見つかりドクターストップ。さらにその翌年には大腸ガンと診断され、もう二度と防具を着けて試合には出られないのではないか、と不安に思っていました。その後、心臓カテーテル手術やガン切除で防具を着けられるまでに回復。実は今回のチームメイトも、全員が身体のどこかに不具合をかかえております。ねんりんピックに参加される多くの方々が、同じように身体の不調や家族の介護を抱えながら競技を続けておられると思います。早く大会に送り出してくれた家族に感謝して、また素晴らしい大会運営をしてくださった神奈川県の皆様にも心よりお礼を申し上げます。私も25年後に娘と一緒にねんりんピック出場という夢をもって、次世代選手の育成と自己研鑽を重ねていきたいと思っています。



4人で勝ち取った感無量の準優勝。(右から2番目)



サッカー 「香川シニア 60」(選手代表)

さ さ き のぼる
佐々木 登さん

64 歳

● 参加歴：3 回目

メンバー全員で勝ち取った待望の金メダル！

私は3回目の参加となった今大会で、長年お世話していただいた先輩の後を引き継ぎ、チームの責任者として参加しました。選手の募集、選考から始まり、参加申し込み、宿泊ホテルの確保、JR チケットの手配、参加費の集金、支払いなどの会計業務まで。準備することが多くて最初は不安もありましたが、メンバーの理解と協力のおかげで無事、大役を果たすことができました。

桜木町のホテルに宿泊していたため、横浜赤レンガ倉庫を散策したり、観覧車に乗ったり、動くガンダムに感動したりとそれぞれに横浜観光を楽しみました。昼は新横浜ラーメン博物館で1950年代の夕焼けの街並みの中でラーメンを堪能し、夜は横浜中華街で本場の中華料理を満喫。2日間の交流大会の健闘をみんなで確認しました。

横浜アリーナでの開会式は、都会らしさを感じさせる趣向を凝らした演出で非常に感動しました。サッカー交流大会の第1試合は強豪「埼玉シニア 60」さん。初戦は監督の方針でベストメンバー、交代なしで勝ちに行こうと臨みましたが、しかし、さすが関東の強豪チーム。足元の技術が上手く、何度かピンチを招きながらも何とか無得点に抑え、こちらの攻撃はなかなか思うように機能せず、0-0の引き分けとなりました。

第2試合は「山形県鶴岡 FC ドリーム」さん。この試合からは「香川シニア 60」らしい試合となりました。相手よりもより走り、最後まで諦めないでボールを追いかける。前半後半ではほぼメンバーを総

入れ替えし、全員で守り攻撃するスタイルが機能。後半に貴重な1点を入れて逃げ切り、1-0で勝利することができました。

翌日の相手は「シニア岡山 60」さん、近県でよく試合を重ねており、手の内の知れたチーム同士の戦いとなり、お互い勝てば首位になれるという状況でした。この試合も全員出場で前半は0-0で折り返す展開に。後半、少し攻撃的な布陣で挑んだ香川が押し気味に試合を進め、相手陣内で得たFKをゴール前に上げ、相手のクリアがオウンゴールとなり1点先制。そのまま相手の攻撃を無得点に抑えて1-0で勝利することができました。2勝1分け勝ち点7、全員出場でブロック優勝、金メダルを獲得することができました。「あきた大会」の銅メダル、「和歌山大会」の銀メダルに続き、今回は待望の金メダル！記念すべき大会となりました。

関係者みなさんに感謝するとともに、全国の参加者と交流できたこと、横浜の街を満喫して大人の修学旅行のような楽しい時間を過ごせたことをいい思い出に、これからも生涯スポーツとしてのサッカーを楽しんでいけたらと思います。



全員出場で勝ち取った優勝は喜びもひとしお。(後列右から3番目)



スポーツチャンバラ 「高知県」(監督兼選手)

の む ら み ゆ き

野村 美雪さん

60 歳

● 参加歴：1 回目

人生最高の笑顔が咲いた優勝インタビュー

スポーツチャンバラが誕生して 50 年となる節目を目前に控えた 2022 年、この競技がねりんピックで初開催されることになりました。開催地は憧れの地「鎌倉」。

31 歳の時、家族でスポーツチャンバラを始めて 29 年。大会が 1 年延期されたことで、夫婦 2 人揃って高知県選手として出場させていただくことになりました。思えば 17 年前から娘に負け続けてきましたが、「この大会に娘はいないなあ」と。いつの日からか「ねりんピックで初代優勝したい」と思うようになり、この 2 年間、「ねりんピック出場」という目標が心の糧でした。目標があると練習が楽しく、60 歳でも最年少！ もう、ワクワクしながらこの日を迎えました。

試合は毎回ドキドキするものですが、今回は格別で、基本動作の対戦は毎回かつてない緊張をしました。ついに決勝戦。思いがけず会場内に「野村さ～ん、頑張って～」という声援が。ちょうど高知県社会福祉協議会の町田さんが来てく

れ、手を振ってくれていました。夫や娘夫婦、孫の姿も傍らにあり、「娘はこんな景色を見たのか」と、ふと緊張がほぐれました。結果は旗 1 本を落としましたが優勝。やったあー！拳を握り締めました。私の集大成でありました。後から優勝者インタビューを受けた映像を見たのですが、笑顔満開。こんなにうれしそうな自分の顔を見たことはありませんでした。

次に打突。こちらは夫婦ともに入賞には届きませんでしたが、思いっきり剣を振って全国の先輩方と対戦。なんと楽しいことでしょう。これぞスポチャンの醍醐味、「勝って良し、負けて良し、見て良し」。試合を堪能し人生のご褒美をいただいた気分でした。今後は「こんな面白いことが待ってるよ」と、後進に道を示していきたいと思います。

この素晴らしい「ねりんピックかながわ 2022」に参加させていただき、携わっていただいた全ての方々に、心より感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。



気合を入れて、得物自由(ロング)の試合へ。



大会審判長の多田先生(左)と夫(右)と一緒に。



水 泳 平泳ぎ 50 m 平泳ぎ 25m 「広島市」(選手)

ひ ぐち つよし

樋口 毅さん

81 歳

● 参加歴：10 回目

人生 100 年時代、これからが私たちの出番

目標としていた 10 回目のねんりんピックが無事終了しました。選考していただいた関係者、水泳仲間に心から感謝します。

本来スポーツは大好きですが、健康第一が基本だと思います。私の健康法は運動、食事、休養など規則正しい生活することと、スポーツを通じていい汗をかき、リフレッシュするのがモットーです。そのため、週に 4、5 回スポーツクラブに通い、年齢に応じたトレーニングと水泳の練習をするのが日課ですが、年々体力の低下とタイムのダウンは否めません。

競泳を始めて 24 年になりますが、毎年県内、全国の大会に 10 回以上出場してきました。ねんりんピックは、友人に勧められて初めて出場したのが 61 歳の時。その時の目標は 10 回出場とメダル獲得でした。幸い、これまで金 11、銀 4、銅 6 のメダルを獲得でき、その結果に満足しています。今回は、過去の大会で競り合った他県の 3 名と再会して交流することができ、表彰台での雰囲気も格別なものがあって、有意義な大会になりました。また、技術面では、63 歳の時に出場した「群馬大会」で 1 位だった選手の泳法が印象的で、現在のフォームに改造しました。

ねんりんピックは 60 歳以上の高齢者向けイベント

だと位置づけていましたが、今や、「シニアの国体」とも言うべき交流会だと思います。2006 年から今まで、ねんりんピックに出場した市や県の有志による親睦主体の「ねんりん会」を結成し、現在 38 名の会員で年 3 回会合を開催しています。飲食を交えて水泳に関する情報、技術向上、世間話など、所属クラブは違いますが意見の交換と親睦を図っています。

今や人生 100 年の時代です。これからが我々の出番ですよ！ 私も「スイム 100 歳」をめざして努力と根性で頑張ります。

最後に、「ねんりんピックかながわ 2022」ははつらつとした楽しい大会でした。神奈川県皆さん、大会を支えていただいた地元相模原の皆さん、ありがとうございました。



広島市水泳チームの皆さんと。努力と根性でめざすは「スイム 100 歳」。(前列右端)